



## 特集

# 友好交流 30 年のあゆみ

～伊万里市民訪問団が中国大連市を訪問～

● 問合せ先 国際戦略室 (☎ 227046)



伊万里市と中国大連市の友好交流が始まってから、今年で30年の節目を迎えました。

『10年、偉大なり』、『20年、恐るべし』、『30年、歴史になる』、『50年、神のごとし』。

続けることの大切さを説いた中国の格言があります。日本にも、『継続は力なり』ということわざがあるように、友好的な関係は、一朝一夕に作り上げられるものではありません。これまで両市が行ってきたさまざまな交流によって『歴史』を刻んできました。

この友好交流30周年を記念し、総勢59人の市民訪問団が、5月20日から23日(※)にかけて大連市を訪れ、交流行事や文化体験などさまざまな活動を行いました。

今回の特集では、これまでの30年の交流の歴史を振り返るとともに、訪問団の交流活動の紹介などを通して、次代を見据えたこれからの両市の関係と相互発展について考えます。

(※)途中2コースに分かれ、大連コースの団員は23日に帰国。大連・西安コースの団員は22日に西安に移動、24日に帰国。



↑友好交流都市の協議書に調印



↑公務研修生受け入れ開始



↑市民体育祭での劉偉さんの太極拳模範演舞



## 交流の歴史

### ■交流の始まり

伊万里市と大連市との交流の始まりは、1987年8月。当時の竹内通教伊万里市長を団長とする『伊万里市経済交流中国視察団』が、中国の港湾などの実情視察や経済交流の可能性の調査をするため、大連市をはじめとする6都市を訪問しました。また、同じ頃、大連市から著名な書道家である于植元<sup>うゑげん</sup>さんを団長とする教育視察団が伊万里市を訪問。この相互交流から両市の交流が始まり、その時々の方勢に合わせ、地域資源を生かした交流を進めていこうと申し合わせました。

### ■各種研修生の受け入れ

1989年2月、大連市が

## 大連市の紹介

大連市は、中国東北部の遼寧省の中で最も南にあり、三方を海に囲まれた美しい都市です。中国における有名な港湾・工業・観光都市であり、『アカシアのまち』、『ファッションのまち』、『サッカーのまち』などと言われています。

- 人口 698.7万人 (2016年3月・伊万里市の約125倍)
- 面積 12,574km<sup>2</sup> (伊万里市の約50倍)



↑鈴なりに白い花を咲かせる『アカシア』



大連市の行政機関などが集中する約12km<sup>2</sup>の広大な面積の『人民広場』

らの縫製技術研修生の受け入れを皮切りに、梨栽培技術、牛肥育技術などの研修生を受け入れていきます。また、1991年4月には、第1期公務研修生を受け入れ。以降も受け入れは続き、現在18人目となる李瑩<sup>りえい</sup>さんが市内でさまざまな研修に取り組んでいます。

### ■そして友好交流都市へ

2007年5月、友好交流20周年を記念して、『両市の友好協力関係の更なる強化に関する協議書』に調印し、友好交流都市締結に至りました。同年の11月には、76人の市民交流訪問団が大連市を訪問し、さまざまな交流を行いました。以降も市民訪問団の派遣などを通じて、両市の友好の輪は広がり続けています。

### 交流に関する主な動き

- 1987年8月 相互訪問により伊万里市と大連市の交流開始
- 1988年10月 大連市から太極拳指導者・劉偉<sup>りゅうゐ</sup>さんを招聘<sup>しょうへい</sup>。1か月間にわたり市内で指導
- 1989年2月 大連市から縫製技術研修生を受け入れ。以後、各種研修生を受け入れる
- 1989年3月 伊万里市国際交流協会が発足
- 1989年12月 魏富海大連市長ら政府代表団が来伊
- 1991年4月 大連市から第1期公務研修生を受け入れ
- 1992年8月 伊万里市卓球友好親善訪中団が大連市を訪問
- 1996年10月 伊万里市日中友好協会が大連市を訪問。竹内通教さんに『大連市名誉市民』が授与される
- 1997年7月 友好交流10周年を記念し、伊万里市代表団が大連市を訪問
- 1997年9月 梨栽培技術指導者・堀田節次<sup>ほりだのぶつぐ</sup>さん(南波多町)が中国国家『友誼賞』を受賞
- 1999年8月 大連第37中学校の生徒が来伊し、啓成中学校の生徒と交流
- 2000年8月 啓成中学校の生徒が大連市を訪問。大連第37中学校の生徒と交流
- 2001年9月 大連市金州区国営農場『日本良質梨導入栽培及び普及モデル基地』碑除幕式で伊万里市収入役などが大連市を訪問



↑大連市の小学生と折り紙遊びなどで交流 ↑農業視察団が伊万里牛の肥育状況を視察 ↑啓成中学校の生徒が大連市の中学校を訪問

### 世界有数の貿易港『大連港』

伊万里港との国際定期コンテナ航路がある大連港は、中国東北部の海の玄関口で国際貿易の拠点としての役割を担っています。世界各国の主要な港と86のコンテナ航路があり、2016年の取扱量は世界15位の944万個。これは、伊万里港の270倍以上にもなります。また、中国最大のクルーズ港でもあり、年間に600万人の乗客が行き来しています。



↑ガントリークレーンが林立する大連港



### これまでの多様な分野での交流

#### ■産業交流

大連市からは1990年5月の農業技術視察団をはじめとして、水産業・縫製技術・テレビ局技術などさまざまな分野の視察団が訪れていました。また伊万里市からは梨栽培の技術者や牛肥育技術の指導者、陶芸家を派遣するなど、伊万里が持つ高い技術を伝えています。

#### ■経済交流

2003年11月に大連港と伊万里港との間に定期コンテナ航路が開設されました。大連港からは家具や日用品などのさまざまな品目が輸入され、

伊万里港からは機械製品などが輸出されています。伊万里港は現在、5つの定期コンテナ航路があり、博多港、北九州港、志布志港に次ぐ九州第4位の取扱量を誇る物流拠点港へと成長しています。

また、2004年10月、中国への伊万里産品の販路開拓を目指し、大連市のデパートで『伊万里フェア』を開催。伊万里梨や伊万里焼の販売を行いました。

#### ■文化・教育・スポーツ交流

文化・教育・スポーツの面では、両市の青少年交流を積極的に実施しています。

2000年8月に両市の中学生が交互に訪問し、ホームステイ交流を行ったほか、2016年1月には大連市から小学生修学旅行団が市内の小学校を訪問。日本の折り紙やゲームなどをして交流を深めました。

そのほか、2002年8月、中国・北京市で開催された友好都市対抗中学生卓球大会では、伊万里市と大連市の中学生がペアを組み出場。今年8月開催の同大会にも市内の中学生2人を派遣する予定です。

#### ■観光交流

近年では観光面での交流も盛んになってきています。2014年以降は、大連市旅遊局観光視察団や国際旅行社が伊万里市を訪問し、大川内山などを視察しています。また、2015年からは伊万里市からも観光PR代表団を派遣しています。

#### ■そしてこれからも

これまでのさまざまな交流を通じて、両市の友好関係が築き上げられてきました。これからも時代の変化に応じた交流を行い、相互の発展を図っていく必要があります。

- 2002年5月 『中国大連市商品交易会』に市内企業の工業製品などを出展。同時に『鍋島献上の儀』を行い、大連市政府へ色鍋島を献上
- 2004年4月 伊万里市制50周年を記念し、夏徳仁大連市長が来伊、『友好交流の証』としてアカシアを記念植樹。7月には伊万里市民訪問団が大連市でマキの木を記念植樹
- 2007年5月 塚部市長が大連市を訪問。夏大連市長とともに協議書に調印し友好交流都市になる
- 2007年11月 友好交流20周年を記念し、市民訪問団76人が大連市を訪問
- 2008年8月 伊万里市国際交流協会20周年を記念し、伊万里市・大連市青少年友好交流訪問団が大連市を訪問し、書道・卓球交流を行う
- 2012年8月 友好交流25周年を記念し、伊万里市民訪問団41人が大連市を訪問
- 2015年1月 大連市旅遊局観光視察団が来伊
- 2016年1月 大連市の小学生修学旅行団198人が来伊。5日間にわたり伊万里市内の小学校5校と交流
- 2016年5月 伊万里市民友好訪問団を派遣。塚部市長に大連市名誉市民の称号が授与される
- 2017年5月 友好交流30周年を記念し、伊万里市民訪問団59人が大連市を訪問



5.21

↑ 500人規模の大規模な歓迎レセプション



5.20

劉偉さん直伝の太極拳を披露



5.20

↑ 記念レセプションで互いの絆を確認



### 今回の訪問で深まる理解と絆

#### ■ 友好交流30周年記念レセプション

5月20日、友好交流30周年を記念したレセプションが開催されました。大連市からは盧林副市长をはじめとして、歴代の公務研修生など23人が出席し、市民訪問団を温かく歓迎。大連市少年宮の歌や踊りが披露され、伊万里市からは太極拳の演舞を披露しました。参加者は終始和やかな雰囲気の中で旧交を温めたり、新たな出会いに話の花を咲かせたりしながら、交流を深めていきました。

#### ■ 大連アカシア祭り開幕式

5月21日、大連市のリゾート地区である、棒捶島景色区で開催された『大連アカシア祭り開幕式』に参加。日本の各都市やアジア、ヨーロッパなどの各国の来賓を代表して、塚部市長があいさつをしました。



↑ 「友好関係は互いの発展にも繋がる」とあいさつする塚部市長

#### ■ 大連アカシア祭りウォーキング大会へ参加

訪問団員は、アカシア祭りウォーキング大会に伊万里市と伊万里ハーフマラソンのPRを兼ねて、伊万里ハーフマラソン公式Tシャツを着て参加。アカシアの花で彩られたコースを満喫しながら、参加者同士の交流を深めました。



↑ 気分爽快に『ゴール』

#### ■ 切り紙体験

ウォーキング大会の後は、大連市現代博物館で、大連市の伝統文化である『切り紙』体験を行いました。簡単な文字から複雑な文様まで、約2時間をかけて製作しました。はじめは「2時間もや〜とぼやいていた団員も、いざ作業を始めると時間を忘れて没頭。はさみを器用に使って作品を完成させていました。ま

### 大連国際マラソンにも参加

大連市では、国際マラソン大会が毎年開催されています。中国のマラソン大会のなかでも歴史のある大規模な大会で、5月14日に行われた今年度は、世界各国から約3万人のランナーが集結。伊万里市からも市民ランナーを4人派遣し、伊万里ハーフマラソン公式Tシャツを着て伊万里をPRしながら、大連の美しい街並みなどを走りました。



↑ 現地のランナーと完走をたたえ合いました

↑ 続々とゴールするランナー

#### ■ アカシア祭り・観光フォーラム記念レセプション

アカシア祭りとは観光フォーラムの開催に合わせて大連市を訪問した各国の訪問団が招待された歓迎レセプションに参加しました。着物姿で参加した団員は、各国の参加者から記念写真を求められるなど注目の的。中国のみならず世界に日本文化のすばらしさを広げていきました。

また、中国の楽器演奏や踊りなども披露され、約500人が参加した大規模なレセプションに訪問団員も驚いた様子でした。



↑ 見事な造形の展示作品



↑ 童心に戻って作業に集中

た、会場には緻密に切り抜かれた文様の作品も展示されており、団員は繊細で美しい大連市の伝統文化に関心した様子で見入っていました。



↑大都市・企業に混じり存在感を示しました ↑観光ハイレベルフォーラムで伊万里をPR ↑譚書記（右）と握手を交わす塚部市長



50年、100年の交流に向けて

■中日観光大連ハイレベルフォーラム

5月22日、大連市旅遊局が主催する中日観光大連ハイレベルフォーラムに参加。日中両国の観光都市や旅行会社、航空会社などが一堂に会して観光連携の方策などを話し合いました。

伊万里市の観光について塚部市長は、「多様化するニーズに対応するために近隣地域と広域で連携しながら、伊万里産品をPRしていきたい。大連市との長年の交流実績をもとに、今後は相互の滞在型の観光交流を行っていききたい」と展望を發表しました。会場の大規模モニターには伊万里市の観光プロモーション映像が映し出され、参加者の目を引いていました。

■息の長い交流を約束

今回の訪問で塚部市長は、大連市の多くの要人と会見。肖盛峰大連市長は、「今回多数の市民と訪問いただいたことに敬意を表します。今後更なる交流を図っていきましょう。」と感謝の意を述べました。

また、今回訪問した日本の各都市の訪問団の中で唯一、大連市のトップである中国共産党大連市委員会の譚書記との会見が実現。譚書記からは、「伊万里市とは30年の友好交流の歴史を作ってきた。今後とも両市の発展に寄与できる交流をお願いいたします。」との言葉をもらいました。今後さまざまな分野で連携を密にし、将来を見据えた息の長い交流を続けていくことを誓い合いました。

一 大連を身近に感じられる 取り組みを進めます 一

今回の訪問では、これまで両市が築き上げてきた交流の歴史の重みを振り返り、互いの絆と友情を再確認することができました。また、観光連携など将来にわたり互いが発展していくための方策などを話し合うこともでき、充実した訪問となりました。

この30年、日本と中国の間では緊張状態にあった時期もありましたが、伊万里市と大連市の友好の糸が切れることはありませんでした。これもひとえに、市民同士の草の根交流を続け、互いを理解しあっていたからこそではないでしょうか。

今後、50年、100年と友好的な関係を維持していくためには、この交流の輪を次世代につなげて行かなければなりません。そのため市では、今後の30周年事業として、青少年を中心とした交流事業を計画しています。また、来年度以降もさまざまな交流事業を計画する予定です。市民の皆さんが気軽に参加できるようにイベントも実施したいと考えていますので、その際はぜひ参加をお願いします。



国際戦略室 室長 力武 浩和

◆ 30周年事業 今後の予定

7月30日～31日 大連市の青少年を受け入れ、芸術・文化交流などを行います。

8月 中国・北京で開催される卓球大会に、大連市と伊万里市の中学生でペアを組み出場します。

11月 中学生を大連市へ派遣。ホームステイなどを通じて国際社会で活躍できる人材を育成します。

市内各地を視察

5月22日、一般参加の訪問団員は大連・旅順コースと大連市内コースに分かれて、市内各地を視察しました。大連市は旧満州として日本の統治下にあった時代があります。各所にある日本とゆかりのある歴史的な建物などを巡って両国の歴史的背景や関係性について学び、相互理解を深めました。



↑白玉山



↑老虎灘



↑旧満州鉄道本社